

4期生（3学年）の総合的な探究の時間

1. 年間の概要

今年度は昨年度まで作成した探究課題と自分の進路を繋げることを目標とした。前期には自分の生き方・在り方について考え、後期は自治体の様々なデータから魅力・課題を見つけ、これまでの探究課題を利用したグループ発表を行った。また、1月には金融教育から成人としての生き方を考えた。

2. 年間指導計画

月	テーマ	観点		
		知識・理解	思考・判断 表現	主体的に 取り組む態度
4	自分の生き方・在り方を考える		○	○
5				
6				
7				
8	自治体の調査研究 課題設定	○	○	○
9				
10				
11	スライド作成・研究発表	○	○	○
12				
1	金融教育	○		○

3. 取組の具体的な内容

(1) 自分の生き方・在り方を考える

自らの進路選択のため、今後1年間の取組の確認やこれまでの研究課題と重ね合わせ、大学教授の授業を動画で見て自分の進路への興味関心を深め、大学への志望理由をまとめ、夏休み以降へ繋がる活動を行った。

○主な大学教授の授業タイトル

- ・SDGs＋多様性＝経済学
- ・欲しいものだけ作る化学－有機合成化学－
- ・世界人口100億人の食糧供給を考える
- ・第四次産業革命

5月29日(月)総合的な探究の時間
 ○自分の今回見た動画の内容をまとめてみよう
 提出された資料はクラスで共有します

1. 大学・学部・教授名・タイトルを記入しよう

神戸	大学	経済	学部	教授名	林 隆一
----	----	----	----	-----	------

タイトル
 SDGs+多様性=経済学

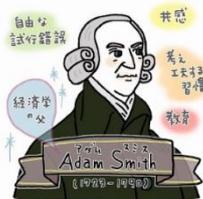
2. 講義の内容を見ている人にもわかるように説明してみよう (図など使用する場合は次のページで説明する)

<p>経済学の父と呼ばれているアダム・スミスの経済学3つの主張の1つである、自由な試行錯誤が幸せをもたらすというものを、スミスから136年後にシュンペーターが引用、追求し、イノベーション、自由な試行錯誤を取り入れ、それらは欧米諸国を中心に行われた。その結果幸福度が上がった。貧困層のパーセンテージの低下、最低賃金の増加などかなりの成果が出た。しかし、日本はこれらを取り入れていないため、日本だけが遅れている、そんな状況になっている。</p>
--

3. 自分の進路も総合探究のテーマにどのように関わるか考えてみよう

<p>経済学はお金のこともあるがそれはほんの一部で、ただの仕組みあるだけにすぎないが、そのお金がその周りの環境を変えたり、幸せをもたらすものであるというのは世界情勢に直結するものであると思うので、いま就きたい仕事は世界情勢に直接的に関わってくる面もあるので、経済学を学ぶことで将来仕事の中で活かすことができる知識を身につけることができると思った。</p>

講座の説明用 白紙ページ
 わかりやすい部分があれば図や写真でまとめてみよう



「お金」の正体: お金は、世界の限りある資源を有効に使い、世界を幸せにするための「仕組み」に過ぎません。

投資は応援する行為: 投資は、意識して自分が応援したい事柄や人々に託す行為であり、それらが集まり、将来の世界を創っています。

自分のお金が平和や環境を築く: 無自覚な日本人のお金は、非人道的な武器関連企業や環境負荷の大きい石炭火力へ投資(応援)される間に、欧米では再生可能エネルギーに投資・普及が進みました。

経済学は、私たちの「行動」が与える影響を解明するために、多様な研究が進んでいます。

(2) 自治体の調査研究・課題設定

これまで調査・探究をしてきた題材を利用し、また内閣府地方創生推進室ビッグデータチーム、経済産業省地域経済産業調査室から配信されている RESAS - 地域経済分析システムを利用し、将来的な予測をもとにそれぞれ興味のある自治体を決め、その自治体の魅力・課題を調査し、その対策としての企画作成をグループとして行った。



(3) スライド作成・研究発表

(2)で行った調査研究をもとにスライドを作成し発表を行った。発表についてはグループでの発表を行った。フィードバックを行い、聞く生徒も発表者に対して考えを伝える場を作った。

○主な研究発表

- ・金沢区に若者を増やすために
- ・七里ガ浜の海をきれいにするために
- ・磯子区企業見学ツアー
- ・横須賀に住んでいる人がよりよく暮らしていくために

(4) 金融教育

18歳で成人となり、卒業後の自らのお金に関する考え方を深めるため、学校だけでなく、企業のサポートを受け、授業を行い、将来のライフプランを考えるなど、意見交換もしながら学んだ。

4. 今年度の活動を振り返って

今年度は3年生という観点から、自分の将来とこれまでの自分の調査研究を繋げることを目標にスタートした。大学教授の授業動画の視聴では、3,000を超える中から自分の興味のある分野を探しつつ、自らが将来どのように進路活動を進めていくか、今後どのようなことを勉強していくかということそれぞれが考えながら進めていった。

後期は、グループでの作業を通しアイデアを出し合い、自治体の課題解決をテーマに調査研究を行った。データを使用しながら、課題を見つけ、将来的な課題を設定し、その解決のために必要な手立てを仮説として考え、実際の実現するためにはどのような協力が必要という観点を持ち、社会人になってからの基礎になるような過程を通して探究を行った。

3年間の総合的な探究の時間を通じて、自分の身の周りにもあることでも、SDGs に対して繋がりがあること、世界規模の課題も自分の足元のレベルから繋がっていて、その解決を少しずつ進めていくことが、大きな問題へと発展してことが授業を作成していく過程でも重要であることを気づかされた。生徒にとっても、今後の社会に進出していく中で、身近な問題をきっかけに行動や仕事に対していい影響があることを望む。

(3学年担当 教諭 安齋 賢)